



## 3月のご挨拶 校長 古賀 誠子

学院のキャンパスにある110本の桜が、蕾をつけ、もうすぐ咲こうとしています。福岡海星のキャンパスは、福岡の中でもよく知られる桜の名所でもあります。暖かい陽ざし、グレーの制服が似合うピンク色の桜の花びらに包まれて、生徒たちが学校に通う姿を見るのを待ち遠しく思います。

そして、3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。3年間の学びを終えて、新しい生活、そして新しい学びに期待していることでしょう。大学生活は、高校の生活とは異なり、自分の専門の分野を極めるとても充実した時間です。あなたが極めた専門分野を、2年後、4年後どうか他者のために役立ててください。

さて、先日、今年度最後のチャペルノートを見ながら、一年を振り返り、2023年度における生徒たちとみ言葉との出会いについて考えてみました。その中で生徒たちの心にとても印象に残っていたシスター入江のメッセージをご紹介します。～(WBCを振り返って)「投手であれ、打者であれ、ピンチのその時に、自分のやるべきことに責任を持ってあたっていく姿が素晴らしかった。つなぎの場に自分を置き、仲間を信じて場面の流れを次に渡していく。大きな責任を受けて立つ姿に感動します。」「マリア様の挑戦する力は神への信頼です。学校目標である『愛をもって真理に向かう』は、愛するというハードルに向かって、常に挑戦する生き方を示しています。」「耳を研ぎ澄まして、今の現実から私に告げられています。ことを聞いてください。『愛を持って真理に向かう』目標のもとに学ぶあなたたちは、きっと神が求めている『私』に出会うことでしょう。」「神と共に歩むことって、歩調が合うのかな?たぶん神様が合わせてくださるでしょう。」「何事も神様の許可がなければ起こりません。そして、神様がなさっていることに口をはさむことはできないのです。」「60周年を生きるわたしたちに、この時をお与えになった。それに応えたあなたたちは、これからもおかれた時と場をキャンセルしないように、受け入れていくことに人生をかけて欲しいと思います。」「道具は必要な時に、その場だけに使われるものです。そのほかの時は、道具箱にしまわれてしまいます。今海星で学んでいるあなたたちは、時と場に適した切れ味のいい道具になるために、自分を磨いています。切れ味のいい道具になるためには、我欲が邪魔になるかもしれませんね。」「他者の苦しみに自らを合わせることによって言葉や行動に移せる。それが愛することの原点でしょうか。」「マリア様は、どういう思いで生まれてきた赤ちゃんを抱いておられたのでしょうか。神のひとり子をお育てする。そのようなことが私にできるだろうか。できるとか、できないとかを超えた思いの中におられたように感じます。『仰せのままに、われになれかし』と応えられたマリア様、置かれた現実を受け入れていく生き方に、自分の立ち位置をしっかりと置かれていま

す。」～

今年も、わたしたちは新たな生き方について学びました。「大きな責任を受けて立つ生き方」、「神様を信頼し、すべてを委ねて、常に挑戦しつづける生き方」、「神様と共に歩む生き方」、「現実を受け入れていくことに人生をかけていく生き方」、「時と場に適した切れ味のいい道具になる生き方」「他者の苦しみに自らを合わせる生き方」です。聖書は、「言葉は神である」ことを明らかにしています。しかし、現実を目を転じてみると、これらの言葉を実践することは決して容易ではありません。挑み、成し遂げるまでに、自分の中で様々な葛藤や苦難がおこることでしょう。しかし、私たちはそれらを乗り越え、新しい価値観に一層心を開き、勇気を出してこれまでの自分の生き方を変えていく必要があるのです。そして、そこにわたしたちが生きるwhyがあると考えます。自分のいのちを「高める」生き方を選び、神様に喜ばれる私たちになっていきましょう。

60周年を迎えた節目に、60周年記念フラッグを作成しました。そこには、生徒たちの海星に対する思いがたくさん書かれています。「個性豊かな人が多い」「いろいろな人と関われる」「自然豊かで、過ごしやすい」「何もかもが明るく見える」「いろいろな国の人と関われる」「女子校だから過ごしやすい」「人として大切にしたいことについてあらためて考えさせられる」「冬休みが長い(笑)」などでした。

同時に、先生方も、海星に対する思いをつづった記念誌、「ぶどうの木」を作成しました。もうお読みになられたかと思いますが、最後に、皆様でもう一度共有したい、本校職員がかいたメッセージがありましたのでお読みします。「海星の先生方は、信じられないくらい優しく、温和だ。そしていつも生徒の元へと出かけ、寄り添おうとする。どんな時も、『どうしてもここまで生徒に寄り添うことが出来るのか』、本当に驚くばかりである。海星ではごく自然に当たり前に遠い異国の戦争や災害にも必ず祈りがささげられる。『戦争や災害を受けた人々を顧み、一刻も早く平穏な日々が訪れることを、再び立ち上がる力をお与えください』と。何かを求め、自分のために祈るのではなく、苦しんでいる人のために祈る。学院が木々や森に囲まれて存在するように、他者に寄り添い、他者と共に歩んでいこうとする『優しさ』に包まれているのを感じる。海星に赴任し、優しく素晴らしい仲間・生徒と巡り会えた。」

このような母校を誇りに思う私たちでありたいと考えます。保護者の皆様、今年度も本校教育に、ご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

## ニュージーランド短期交換留学プログラム

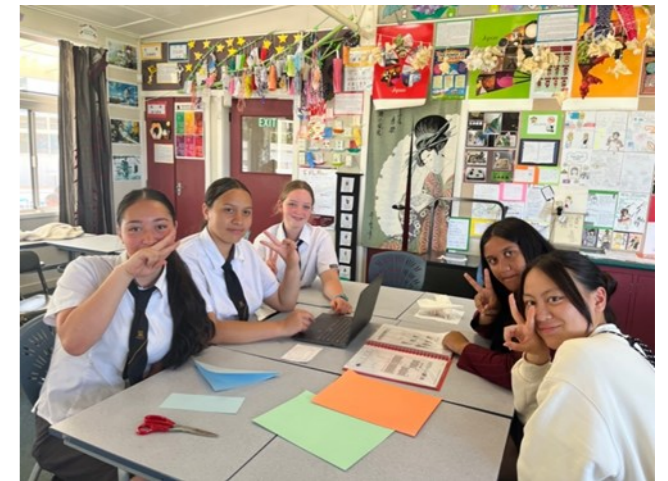
In November, 25 students from Fukuoka Kaisei Girls' High School and local junior high schools participated in the New Zealand Short-Term Exchange for 12 days. Students were able to go to our sister school in Hamilton, Hamilton Girls' High School. Students were warmly welcomed to Hamilton Girls' High School with a traditional Maaori welcome, then soon after students went off to classes with their school buddy. Students enjoyed participating in the classes at Hamilton Girls' High School. Students were most surprised with the green field where they did their PE classes. Each day students went home with their homestay family. They even got to spend two weekends with their host families too! By the end of the short-term exchange, everyone was in tears to say their goodbyes!

It was a great opportunity for our students to speak English every day and challenge themselves in a new environment. We hope they will never forget their time in New Zealand and all the best with your English studies from now on too!



11月に、福岡海星女子学院高等学校および近隣の中学生計25人が、12日間のニュージーランド短期交換留学プログラムに参加しました。ハミルトンにある姉妹校ハミルトン・ガールズ・ハイスクールを訪れ、伝統的なマオリの歓迎で温かく迎えられました。その後すぐに学校の授業に参加することで、生徒たちは初日から楽しい時間を過ごしました。体育の授業では、緑豊かなフィールドにとても驚きました。生徒たちは毎日ホームステイの家族と一緒に帰宅しました。彼らはホストファミリーとの週末も2回過ごすことができました。短期交換留学の最後には、皆が涙ながらに別れを告げました。

今回の短期交換留学プログラムは毎日英語で話す機会があり、新しい環境で自分自身に挑戦する素晴らしい機会でした。生徒たちがニュージーランドでの時間を決して忘れず、これからの英語の勉強でも頑張りたいと願っています。



I was able to learn a lot of things through this training. When I went abroad for the first time, I was surprised that the rules were completely different from those of Japan. Also, I was happy that all the students at HGHS were very kind. I went to a big shopping center with my host mother and it was very different in size from Japan! Everyone in town was nice and happy. We had a great time having a party and eating together. It was good to be able to spend time in a quiet environment rich in nature.

私は今回の研修を通して沢山のことを学びました。初めて海外に行って日本とはルールも全然違うことに驚きました。

また、HGHSの生徒達はみんなとても親切で嬉しかったです。ホストマザーと大きなショッピングセンターに行きましたが、日本とは全然大きさが違いました! 町の人はみんな優しく嬉しかったです。

みんなでパーティをしたりご飯と一緒に食べたりしてとても楽しかったです。自然豊かで静かな環境で過ごす事が出来て良かったです。

(IA Sheila Shiroyama)

# 創立60周年記念式典

令和5年12月7日(木) 10:00~12:00

福岡海星女子学院高等学校 創立60周年おめでとうございます。ヨハネによる福音書1章に「はじめに言葉があった」とあります。これは、「はじめに神の想いがあった」ということでしょう。福岡海星女子学院の創立のはじめ、60年前には、誰の、どういう想いがあったのでしょうか。あなたたちはその想いが現実となった今、ここで学んでいるのです。

あなたたち一人一人は、後に続く後輩のために残す1ページに、責任があります。「あなたは世の光である」と神様からお墨付きをいただいて今日を生きる「私」です。「あなたは世の塩である」と神様から太鼓判を押されて存在している「私」です。しっかりとした足取りで61年目への一歩を踏み出しましょう。



シスター入江挨拶

## 田尻由貴子先生(慈恵病院元看護部長)による記念講演 「いのちと愛」～こうのとりのゆりかごが問いかけたもの～

【生徒の感想より】

・出産を終えたお母さんと養子縁組をした夫婦が涙を流す場面にとっても感動しました。両方に赤ちゃんへの深い愛情があったからこそ流れた涙だったのだらうと胸が熱くなりました。(1年)

・こうのとりのゆりかごに赤ちゃんを預けて来てくれたお母さんを責めるのではなく、「産んでくれて、ありがとう」「命を繋いでくれてありがとう」というあたたかい声をもっと社会全体から聞こえてきたらいいなと思いました。(2年)

・愛の反対は憎しみではなく無関心であるという言葉に胸をうたれました。全ての子どもたちがいろいろな人から愛をもらい、愛を返していけるような社会になってほしいと思いました。(3年)



当日、KBCテレビのニュースに取り上げられました!



インタビューを受ける 井上 柚さん



西日本新聞 12月29日

# 街頭募金

12月2日(土)、福岡市の天神と大橋駅で、本校創立以来続いているクリスマス助け合い街頭募金を行いました。集まったお金は、マリアの宣教者フランシスコ修道会を通じて、アフリカ マダガスカル の医療施設に寄付されました。暖かいご支援ありがとうございました。心より感謝申し上げます。



祝

バトン部2年連続全国大会金賞!!



12月9日(土)に幕張メッセにて「第51回バトントワリング全国大会」が行われました。バトン部が九州代表として出場し、【金賞】を受賞することができました!

たくさんの応援ありがとうございました。

今年も幕張の舞台に立てるように頑張っていきます。今後もバトン部の応援をよろしく願っています。

Follow me

福岡海星女子学院高校



## Schedule of events

1/9	火	始業式
1/13	土	大学入学共通テスト
1/14	日	
1/15	月	3年特編第2期
1/19	金	専願入試
1/20	土	コサージュ作成